



日本ふるさと名産食品展 in クアラルンプール 第2回を開催しました！

(一財)自治体国際化協会交流支援部経済交流課 主事 吉岡 絵里奈

クアアでは、地域産品の海外市場への展開支援に取り組む自治体に対し、地元事業者へのテストマーケティングの場を提供し、海外での食品展開催ノウハウを提供することを目的として「日本ふるさと名産食品展」を開催してきました。2018年度は、10月26日から10日間、昨年を引き続きマレーシア・クアラルンプールで開催しました。

マレーシアで日本食が熱い！

マレーシアには、富裕層が多いと言われる中華系の方々がおおよそ660万人も暮らしています。また、消費を支える世代（15歳～64歳）が国全体の人口の70%を占め、平均年齢は28.3歳です。これらの世代は、日本食を好んで食べ、SNSを通じて日本の情報を得ています。

二年連続で会場となった ISETAN The Japan Store があるブキビンタン地区は、クアラルンプールの中心街で、ビジネスパーソンから家族連れまで、多くの人で賑わいます。同店舗は「日本」をテーマにしたコンセプトで運営をされており、日本食の購買層となりやすい中華系富裕層の方々が主な顧客になっています。場所柄、観光客も多く、欧米系観光客も来店されます。

現地消費者の反応がわかる物産展

今年度は日本酒も対象とし、昨年度のほぼ倍の数であ



2周年イベントもあり、賑わう会場

る27事業者（16自治体）が参加しました。

特に最初の週末は、同店の周年イベントが実施されていたため、多くの来店客がありましたが、語学のできる事業者は直接来店客とコミュニケーションを取り、自社商品を説明、その反応を得ていました。今回の食品展では参加事業者に対しハラル対応は求めていませんでしたが、ムスリム系のお客様に、事業者が丁寧に成分や加工法を説明することにより、購入に結びついたケースもありました。また、今回参加された自治体職員からは、「販売員・お客様など、現地の方からの意見や反応を直接知ることができた」、「出展事業者と情報交換することで、他自治体の取り組み方を知ることができた」というコメントをいただきました。

開催店舗の強みを活かした連携

同店の周年事業での開催を含め、昨年以上に開催店舗には協力を頂き、人気の高い同店の日本食レストラン、日本酒販売コーナー、開催会場でのイートインなどとの連携を行いました。

また、同店からの提案で、今回のフェアでは、料理本の世界大会で3位を受賞したこともあるマレーシアのインフルエンサー、ラビット京子氏とのコラボ企画を実施しました。現地ではなじみの薄い味噌や梅などの出展商品について、ラビット京子氏考案のレシピを用い各事業者へ試食方法をアドバイスしていただきました。また、氏のSNSでイベントの宣伝も積極的に行っていただきました。

マレーシアでは、鮮やかなパッケージが好まれるとのことで、味の次に、カラフル・ポップなパッケージにすることが重要とのことでした。

メニューフェアで新商品開発

今回のフェアでは、同店4階のレストランフロアとのコラボレーションイベントとして、メニューフェアを

初めて実施しました。メニューフェアの利点は、レストランシェフが現地の方の好みに合う料理を考案して下さる事です。日本では固い歯ごたえが自慢の明石蛸・鯛をやわらかくボイルするなど、事業者の方も思いもよらなかった斬新な発想がありました。好評だったメニューは今後、グランドメニューとして採用されるそうです。

日本酒試飲コーナーが大盛況

今回のフェアのテーマである「酒と日本食」の名のとおり、今回のフェアでは、ハードルが高いと言われている酒の新規輸入申請も支援し、7者の日本酒業者に出席していただきました。



日本酒試飲コーナー

物産展会場の日本酒試飲コーナーでは、お客様がカウンター席に座りながら、目の前で事業者が日本酒を注ぎ、説明をしながら、さまざまな味を楽しめるように工夫しました。欧米系の観光客の姿が目立ちました。

イトインに行列も

昨年好評だった物産展会場でのイトインを今年も実施し、カニかまぼこ寿司・名古屋さしめん・抹茶ラテ・明石タコ刺身を提供し、食事時には多くの方が訪れました。中でもカニかま寿司はリピーターの方が何度も来店され、口コミが広がってその友人の方も来店され、行列ができていたのが印象的でした。



イトインの様子 (カニかまぼこ寿司)

期間中、商談会も実施

業務用のニーズを含め、バイヤーから話を聞き、期間中に商談会を開催しました。

実際に商談に結びついたケースも数社あり、現地での年末年始フェアへの出展、継続的な売り場の確保、クアラルンプール市内日系レストランへの出荷など、広がっていきました。



現地レストラン事業者との商談会の様子

長期的な販売展開が大切

現地担当者によるとマレーシアは長期的な販売展開が大切とのこと。特になじみのない日本食品に関しては、一度きりのフェアで結果がでなかったからといって諦めずに何度も出展しつづけることで、定番商品として定着するそうです。

クリアは、これからも自治体の海外への販路開拓支援を行っていきます。

ぜひ「日本ふるさと名産食品展」へご参加ください！

食品展概要

- (1) 日時：2018年10月26日(金)から11月4日(日)まで【10日間】11:00から21:00
- (2) 会場：ISETAN The Japan Store LGF (地下一階)
- (3) 申込み自治体および出展事業者：16自治体、27事業者
- (4) 出展商品：日本酒、黒ニンニク、りんご、タコ・鯛、梅、味噌、ラーメンなど
- (5) 運営委託会社：株式会社中日アド企画
(再委託：合同会社リンクスコーポレーション)